アンター 中山 俊の 医師の「働きがい改革」

第37回

「医師目線」を実現し続ける電子カルテ「ダイナミクス」

株式会社ダイナミクス代表取締役社長 森井俊秀

現役の勤務医で、医師同士が現場のナレッジを共有できるサービスの提供を行うアンター株式会社の中山俊代表取締役をホストに迎えて、「医師の働き方改革」を考える本企画。

今回は、医療DXの推進が叫ばれるなか、約4000の医療機関がユーザーとなっているレセコン一体型電子カルテ「ダイナミクス」を開発した株式会社ダイナミクス（東京都中央区）の森井俊秀代表取締役社長と語り合ってもらった。

「低価格」の裏にある創業者の思想

中山 御社は創業から25年以上の企業ですが、改めて特徴を教えてください。

森井 エンジニアから内科医になった吉原正彦が、勤務医時代に既存システムの使い勝手の悪さに問題意識を持ち、自ら開発したのがレセコン一体型電子カルテ「ダイナミクス」です。初期費用20万円、月額1万2000円という価格設定の背景には、開業医にかかる経済的負担を少しでも減らしたいという思想があります。

しかし、私たちが提供しているのは単なる「安価なソフト」ではありません。約4000の医療機関にご利用いただいているのは、診療の流れを妨げることなく〝痒いところに手が届く〟工夫を愚直に積み重ねてきた結果だと考えています。

コミュニティーが育む「愛着」と「カスタマイズ」

中山 ユーザー同士のつながりが非常に強いと聞きます。

森井 はい。製品のみならず、診療運営について医師同士が意見を交わせる、オープンなコミュニティーがあります。そこで共有される現場の悩みやアイデアをもとに、機能開発を行っています。ユーザーとの近い関係性もダイナミクスの特徴ですね。

中山 まさに、「みんなでコードを育てる」GitHubのような文化ですね。

森井 ソースもオープンにしているため、クリニックの運用に応じて柔軟にカスタマイズできる点も愛着を育んできた理由の一つと考えています。

医療DXと「止まらない診療」の両立

中山 最近は医療DXやクラウド化が叫ばれています。オンプレミス（自社運用）型のダイナミクスを開発してきた御社としては、どのようにとらえていますか。

森井 医療DXの本質は、患者さんの情報を適切に共有し、医療の質を高めていくことにあると考えています。クラウド化はそのための手段の一つであって、目的ではありません。

私たちは創業以来、医院経営に過度な負担をかけないことを信念としてきました。そのため、ガバメントクラウドへの対応など国の施策も視野に入れつつ、コストや運用面で無理のない形を常に模索しています。

中山 クラウドにはメリットとデメリットがそれぞれあります。

森井 先生方からよく聞くのは、自動アップデートなどの利便性がある一方で、ネットワーク障害によって診療が止まることへの不安です。私たちはこれまで、そのリスクを避けるための運用を基本としてきました。

一方で、医療DXへの対応や外部クラウドサービスとのスムーズな連携が今後のクリニック運営で不可欠になることも事実。そこで現在は、操作性やレスポンスに優れたオンプレの強みを活かしながら、バックエンドのデータ管理や共有機能はクラウドで行うハイブリッド型へと設計を進めています。「診療を止めない」ことを最優先に、現場に無理のない形でDXを進めていきたいと考えています。

中山 データの「囲い込み」も問題になっていますね。

森井 クラウドベンダーのなかには、乗り換え時に高額なデータ抽出費用が発生するケースもあります。ダイナミクスでは、データの所有権は医師にあるとし、データの取り出しを自由にできる設計にしています。

医療DXで医師の「働きがい」を実現

中山 国の標準化電子カルテについても、現場とのギャップを感じますか。

森井 医療DXを進めるにあたって、紙カルテを長く使ってこられた先生方のなかには、急激な電子化に戸惑いや不安を感じている方もいらっしゃいます。もしシステム導入だけが先行し、現場の診療が置き去りにされてしまうのであれば、そのようにならない形で医療DXを進めていく必要があると考えています。私たちは、そうした先生方が無理なく使い始められる選択肢を用意する存在でありたいと考えています。

中山 医療DXの本来の目的をはき違えてはいけませんね。

森井 まさにそのとおりです。クラウド化やシステムが最新であることよりも、シンプルで診療と経営に役立つツールであること、そして、医療の質が向上し、患者さんの役に立つことが何よりも重要です。今、業界に大きな変化が起きていますが、私たちの哲学は揺らぎません。先生方が診療に集中できるよう「現場視点のプロダクトを最小の負担で」。これが、私たちが提供し続ける価値です。

さらに今後は、JMDCグループのノウハウを活かすことでクリニック経営を支えていきたいと考えています。

中山 医療の未来を考えるうえで、経営とDXを両輪としてとらえる必要があると改めて感じました。ありがとうございました。

中山 俊

アンター株式会社代表取締役CEO

1986年生まれ。2011年、鹿児島大学医学部卒業。同年、東京医療センター初期研修医。整形外科医として市中病院での勤務を経て、16年、アンター株式会社設立。医師の働き方改革の推進に関する検討会勤務医に対する情報発信に関する作業部会構成員。東京科学大学客員准教授

森井俊秀

株式会社ダイナミクス代表取締役社長

1974年生まれ。大学卒業後、精密機器メーカーにて営業・事業開発・関連会社経営を経験。2021年、JMDCグループのメディカルデータベース株式会社に入社、22年より同社代表取締役。23年10月、株式会社ダイナミクスがJMDCグループ入りしたタイミングで創業者より事業を継承し、代表取締役に就任。MBA取得、国際コーチング連盟認定コーチ（ACC）